

▽ 新垣 武 教授 ARAKAKI, Takeshi



学 科:地域環境政策学科

担当科目:地学、化学、環境科学、環境アセスメント、演習

学歴等のプロフィール

①【主要学歴】②【学位】③【所属学会】④【主要な社会的活動】

- ① テキサス A&M 大学海洋学部博士課程 1992 年修了
- ② Ph.D. (海洋化学) テキサス A&M 大学 1992 年
- ③ 日本地球化学会、日本海洋学会、AGU
- ④

教育活動等

主な教育活動	年月日	摘要
1. 教育活動・方法の実践例 <u>共通科目</u> 1) 環境科学 I&II 2) 地学 I&II 3) 化学 I&II <u>専門科目</u> 4) 環境アセスメント I&II 5) 基礎演習 (通年) 6) 演習 I 7) 演習 II	2010 年 4 月~ 2011 年 3 月	左記の科目については I&II はそれぞれ 2 単位で通年科目は 4 単位である。授業登録者数は講義科目については 100 名~250 名程度である。また、演習科目については 20 名~25 名程度で、基礎演習は新生を対象として、主に読解力やプレゼンテーションスキルの向上を目指している。 演習 I は 3 年次を対象としており、演習 II は 4 年次を対象としているが、その中では特定の課題について調査取りまとめと報告を行う内容になっている。
8) その他 沖縄国際大学公開講座「地域と環境ありんくりん」	2010 年 6 月	新エネルギーとして導入が進む太陽光発電について講義を行った。

<p>2. 作成した教科書、教材、参考書</p> <p><u>共通科目</u></p> <p>1) 環境科学 I&II</p> <p>2) 地学 I&II</p> <p>3) 化学 I&II</p> <p><u>専門科目</u></p> <p>4) 環境アセスメント I&II</p>	<p>2005年4月～</p> <p>2011年3月</p>	<p>左記の科目についてはパワーポイントを用いた講義を行っており、作成したパワーポイント電子ファイルについては自由にコピーしてテキスト代わりに使用してもらっている。</p>
<p>3. 学生支援活動</p> <p>サークル・部活動</p>	<p>2007年4月～</p>	<p>ソフトテニス部の顧問を務めている。</p>
<p>4. 学外での教育活動</p>	<p>2010年2月</p>	<p>沖縄国際大学沖縄経済環境研究所共同研究「先島諸島における観光と環境に関する総合調査研究」の現地報告会（西表島にて開催）において「海岸資源に与える台風の影響 —西表島トウドウマリ浜—」について講演を行った。</p>

研究業績等

【 主要論文及び主要著書 】

1. Kitano Y., Tokuyama A. and Arakaki T. (1979) Magnesian Calcite synthesis from calcium bicarbonate solution containing magnesium and barium ions.
Geochemical Journal 13, 181-185.
2. Morse J.W., Cornwell J.C., Arakaki T., Lin S. and Huerta-Diaz M.A. (1992) Iron sulfide and carbonate mineral diagenesis in Baffin Bay, Texas.
Journal of Sedimentally Petrology 62, 671-680.
3. Arakaki T. and Morse J.W. (1991) Coprecipitation and adsorption of Mn(II) with mackinawite under conditions similar to those found in anoxic sediments.
Geochimica et Cosmochimica Acta 57, 9-14.
4. Morse J.W. and Arakaki T. (1991) Adsorption and coprecipitation of divalent metals with mackinawite (FeS).
Geochimica et Cosmochimica Acta 57, 3635-3640.
5. Arakaki T. and Mucci A. (1995) A continuous and mechanistic representation of calcite reaction-controlled kinetics in dilute solutions at 25 °C and 1 atm total pressure.
Aquatic Geochemistry 1, 105-130.

6. Norman Silverberg, Bjørn Sundby, Alfonso Mucci, Shaojun Zhong, Takeshi Arakaki, Per Hall, Angela Landén, Anders Tengberg (2000) Remineralization of organic carbon in eastern Canadian continental margin sediments.
Deep Sea Research Part II: Topical Studies in Oceanography, Volume 47, Issues 3-4, April 2000, Pages 699-731
7. A. Mucci, B. Sundby, M. Gehlen, T. Arakaki, S. Zhong, N. Silverberg (2000) The fate of carbon in continental shelf sediments of eastern Canada: a case study.
Deep Sea Research Part II: Topical Studies in Oceanography, Volume 47, Issues 3-4, April 2000, Pages 733-760
8. 冲国大ヘリコプター墜落事件に係る土壌および水質汚染調査 (2004)、冲縄国際大学経済論集第1巻第1号、117-135.
9. 放射能汚染を検証するー冲国大による土壌汚染調査 (2005)、“冲国大がアメリカに占領された日” 黒澤亜理子編、84-94.
10. 浅海域における堆積赤土砂の除去に関する基本的な検討 (2005)、冲縄国際大学経済論集第2巻第1号、57-66.
11. 新垣武、名城敏 (2006) 冲縄県における太陽光発電、冲縄国際大学経済論集 第3巻 p. 61-74.
12. 新垣武 (2006) 八重山の大气環境、冲縄国際大学南島研叢書(1)八重山の地域性
13. 新垣武 (2009) 大气中炭酸ガス分圧の変化による塩水の pH 変化、冲縄国際大学経済論集 p. 49-56.
14. 新垣武 (2009) 济州島における水利用の現状と今後の課題、冲縄国際大学南島研叢書(2)韓国・济州島と冲縄
15. Robert A. J. Bogan & Shigeru Ohde & Takeshi Arakaki & Ikuko Mori & Cameron W. McLeod (2009) Changes in Rainwater pH associated with Increasing Atmospheric Carbon Dioxide after the Industrial Revolution, Water Air Soil Pollution, V. 196, p. 263-271.
16. 新垣武、名城敏 (2010) 冲縄県における太陽光発電 (2)、冲縄国際大学経済論集 p. 111-129.
17. 新垣武 (2011) 浅海域における堆積土砂に与える潮流の影響、冲縄国際大学経済論集 第7巻 p. 11-20-.
18. 新垣武 (2011) 新エネルギーとして導入が進む太陽光発電、冲縄国際大学公開講座19「地域と環境ありんくりん」 p. 1- 21.

研究分野

環境科学、海洋化学、地球化学
水質汚染、海洋汚染、海洋中の炭酸物質の化学

【Eメール・ホームページ等】

takeshi@okiu.ac.jp

平成 23 年 10 月 20 日現在